

大成学術財団 2019 年度 研究助成申請書

2018 年 ●月 ●日

一般財団法人 大成学術財団
理事長 山内 隆司 殿

必ず押印のこと

代 表 者 (申請者)	大成 太郎		●印
所属機関・職名 (学部・学科まで記入)	〇〇大学大学院 △△研究科 教授		写 真 (2.4cm×3cm) ※画像データ可
代表者(ローマ字)	TARO TAISEI		
所属機関・職名(英語)	Graduate school of △△, 〇〇 University・Professor		
最 終 学 歴 ・ 学 位	□□大学大学院△△研究科修了・工学博士	専門分野	建築構造
生 年 月 日	19〇〇年(西暦) 〇月 〇日		
所属機関 所在地	(〒 -)	電話	●印
	E-mail		
助成申請する本研究課題は、貴財団以外の機関の助成を受けていないことを誓います。 ●印			

注) 大学、その他研究機関等に常勤し、主たる仕事が研究職として研究活動に従事している研究者及び大学院に在籍する大学院生に限ります。

研究課題名 (課題名は内容を具体的に示すものとしてください。)	
(日本語) ※審査員に内容が良く伝わるように表現を工夫してください。	
(英語)	
研究分野の分類【大分類】	A
【小分類】	2

注) 本申請書 8 ページをご参照ください。 ※「その他」を選択した場合は、D または 10 の後に括弧書きでその分類名を記してください。

本機関所属の上記代表者が貴財団の助成を申し込むことを承諾いたします。

機 関 名 〇〇大学大学院 △△研究科

機 関 長 職 名 ・ 氏 名 (職印) △△研究科長 □□ □□

機 関 所 在 地 (〒 -)

●印

必ず押印のこと

2018 年 ●月 ●日

注) 1. 機関長は、大学の場合は学長、大学院研究科長、学部長、研究所長のいずれかとし、その他の研究所等の場合は所長等としてください。
2. 所属機関長の印がない申請書は無効とします。
3. 大学院生が代表者(申請者)の場合は、指導教官の所属する機関長の押印をしてください。また、その横に指導教官の押印をし、共同研究者リスト(4 ページ)に指導教官を記載してください。

1. 研究形態

研究の形態 (該当するものを○印でかこむ)	個人研究	共同研究 (1 名)	国際共同研究 (名)
※()内は申請者を除いた人数			

注) 共同研究者数を () 内に記載のこと。

2. 研究期間

研究期間	2019年 4月 ~ 2020年 3月
------	---------------------------

3. 申請金額

単位：円 (税込)

2019年度 助成申請金額 (200万円以内)	1	8	0	0	0	0	0
-------------------------	---	---	---	---	---	---	---

4. 当財団年度別助成希望額

単位：円 (税込)

2019年度 (上記3の金額をお書き下さい)	1	8	0	0	0	0	0
助成継続希望の有無 (○印) 有 無							
※助成継続を希望する場合は 2020年度の希望額をお書き下さい。							
合 計 (総額 400万円以内)	1	8	0	0	0	0	0

注) 助成は2年以内とする。2年目は中間報告書の提出によりあらためて内容を審査し、採否・金額を決定する。

5. 研究の目的 (その意義・価値・構想理由等)

※一般の方にも分かるレベルで表現してください。

※研究の意義(学術的背景や社会的意義)・価値・構想理由(着想にいたった経緯)、成果目標等を述べ、いかに応募される研究課題が重要なものであるかを主張してください。

6. 研究の要約（(1)現状の課題、(2)内容、(3)方法、(4)期待される成果）

(1)～(4)について1ページ以内に要約してください。(2)内容には独創的・先駆的研究か、新しいアプローチで行う研究か、応用研究か等についても触れてください。また、一般の方にも分かるレベルで表現してください。

※以下を参考に適宜ご記載ください。

(1) 現状の課題

応募される研究課題が直面している現状の問題点・課題について述べてください。

(2) 内容

研究内容を簡潔に記述して下さい。

(1)で述べた現状の課題を解決するものであることを主張するとよいと思われま

(3) 方法

研究の目的をどのように達成するか、その手法を具体的に記述してください。

実現性の高さ、手法の堅実さについても主張いただくとよいと思われま

また、共同研究者が参画する計画においては、どのように分担していくかについても記載ください。

(4) 期待される成果

既往の研究を発展させる場合には、どのような点で新規性・発展性があるかを記載してください。

特に複数年度の計画として申請される場合は、申請初年度で目標とする成果、次年度で目標とする成果を区分してご記入いただけるようお願いします。(申請書年度末にご提出いただく中間報告書にて進捗状況を判断させていただきます。)

※必ず1ページに収めてください。

複数ページで記述された場合は、申し訳ありませんが、不備書類として処理いたします。

7. 研究スケジュール（2019年度分）

項目	期間	内容
〇〇確認解析	2019年4月～2019年5月	※適宜簡潔にご記載ください。
〇〇実験	2019年6月～2019年9月	※適宜簡潔にご記載ください。
〇〇実験データ整理	2019年10月～2019年12月	※適宜簡潔にご記載ください。
〇〇会議発表（準備）	2020年1月～2020年2月	※適宜簡潔にご記載ください。
完了報告書作成	2020年3月～2020年3月	※適宜簡潔にご記載ください。

注) 上表には、2019年度に実施する項目についてご記入ください。

※次年度（2020年度）への助成継続希望の場合は、本欄に次年度の内容を簡潔に記入してください。

※次年度へ助成継続希望する場合は、適宜簡潔にご記載ください。

注) 助成期間は申請初年度から連続する2年度を最長とします。

8. 本研究の代表者（申請者）及び共同研究者リスト

研究者	(ふりがな) 氏名	最終学校・専攻	年齢	所属機関・現職・学位 (学部・学科まで記入)
代表者（申請者）	たいせい たるう 大成 太郎	〇〇大学・構造	50	〇〇大学大学院 △△研究科・ 教授・博士
共同研究者	さいだん じろう 財団 次郎	〇〇大学・構造	30	〇〇大学大学院 △△研究科・ 助教・修士

注) 大学院生が代表者（申請者）の場合は、共同研究者に指導教官を記載してください。

代表者以外の連絡責任者

(ふりがな)
氏名

連絡先(〒 —)

電話

E-mail

研究内容や経費等について説明できる方です。
所属や役職までご記入ください。

注) 代表者（申請者）を代理して財団からの連絡等に対応できる方です。該当者なしの場合は空欄としてください。

9. 当財団以外の機関の助成

9-1 代表者又は共同研究者が本研究以外について他の機関に助成を申請した場合（予定を含む）は、その旨を記載してください。

（他の機関に助成を申請し、すでに助成が決定している場合は9-2に記載してください。）

申請先の機関名	研究費等の名称	代表者氏名	研究課題	申請金額 (万円)	助成期間 年 月～年 月
日本学術振興会	科学研究費補助金	大成太郎	〇〇に関する研究	500	2019年4月～ 2021年3月

9-2 代表者又は共同研究者が本研究以外について他の機関から既に助成を受けている場合は、その旨を記載してください。（助成期間が既に終了しているものは記載の必要はありません。）

申請先の機関名	研究費等の名称	代表者氏名	研究課題	助成金額 (万円)	助成期間 年 月～年 月
〇〇財団	研究助成金	大成太郎	〇〇における実験的研究	100	2019年4月～ 2020年3月

10. 2019 年度分申請助成金の使途内訳（使途別に具体的に記入）

単位は必ず記入してください。

単位：円（税込）

使途区分（内訳）	数量(単位)	単 価	所要額
設備備品費（品名）			
〇〇計測用端末	2 台	50,000	100,000
			100,000
消耗品費（品名）			
〇〇実験の試験体	3 体	20,000	60,000
〇〇解析ソフト	1 個	100,000	100,000
事務用品	1 式		30,000
小 計			190,000
旅費（目的・行先）			
〇〇の現地調査（〇〇県〇〇市）2 名	2 回	60,000	120,000
〇〇学会発表（〇〇県〇〇市）1 名	1 回	50,000	50,000
小 計			170,000
謝金（事項・目的・相手先等）			
実験補助 5 人×10 日	50 人日	6,000	300,000
データ解析 2 人×30 時間	60 人時	5,000	300,000
指導料（〇〇大学 〇〇教授）	1 式		200,000
小 計			800,000
印刷製本費（具体的な内容）			
論文印刷費・掲載料	1 式		100,000
小 計			100,000
所属機関の間接経費（助成額の 10%以内）			
	1 式		200,000
その他（具体的な内容）			
外部委託費（〇〇の調査）	1 式		200,000
車両レンタル費（〇〇の調査）	2 回	20,000	40,000
小 計			240,000
合 計（助成申請金額）			1,800,000

記入欄を追加したい場合は、他項目の未使用欄を削除し、その分追加してください。
例) 設備備品費の 2 行を削除し、消耗品費に 2 行追加する。

必ず小計を記入してください。

- 注) 1. 助成対象研究に必要な費用のみ申請してください。未使用の助成金は返金していただきます。
 2. 助成期間終了後に領収証等の証憑（原本、必要に応じて返還）を添えて使途実施報告をしていただきます。
 3. 設備備品費とは助成対象研究に必要となる実験装置等のことをいい、助成対象研究以外に転用可能なパソコン費用等は申請できません。また、設備備品費は申請助成金額の 30%以内としてください。
 4. 旅費は実費（普通車指定席（鉄道）、エコノミークラス（航空機）利用）を申請してください。
 5. 人件費は申請できません。ただし、助成対象研究目的に限定した臨時雇用者費用は可とします。
 6. 飲食代は申請できません。ただし、会議等に供する茶菓代程度は可とします。

■本申請書1ページの「研究分野の分類」欄について

申請した研究課題について該当するものを各項目1つ選んで、1ページの記入欄にご記入ください。

【大分類】

A. 建築・土木共通 B. 建築 C. 土木 D. その他

注1) 申請者の原籍ではなく、応募した研究課題の内容に応じて選択してください。

注2) 建築または土木に限定されない研究課題は、「A. 建築・土木共通」を選択してください。

【小分類】(研究分野)

1. 計画 2. 構造 3. 外乱 4. 設備・環境・エネルギー 5. 施工 6. 材料
7. 地盤・岩盤 8. 防災・減災・復興 9. リニューアル・長寿命化 10. その他

注3) 計画論に関する研究課題のうち、建築計画や都市計画などは「1. 計画」、防災計画や避難計画などは「8. 防災・減災・復興」を選択してください。

注4) AI・IoT・ICT技術に関する研究課題の場合は、それを適用した分野を選択してください。例えばICT等を活用した自動化施工などは「5. 施工」を選択してください。

注5) 複数の分野への関連が想定される研究課題の場合は、その趣旨に適した分野を選択してください。例えば、地震や津波に関する研究課題の場合、その外力評価は「3. 外乱」、外乱に対する架構システムやデバイス等は「2. 構造」、被害調査手法等は「8. 防災・減災・復興」を選択してください。また、木材などは、木材架構の構造は「2. 構造」、木材に関する環境評価は「4. 設備・環境・エネルギー」、材料特性等は「6. 材料」を選択してください。

※上記の例に含まれないものは、適宜判断して選択してください。

注6) 大分類「D. その他」や小分類「10. その他」を選択した場合は、1ページの記入欄には、以下のようにDまたは10の後に括弧書きで分類や研究分野の名称を記してください。

[記入例] D (〇〇〇〇) または 10 (〇〇〇〇) 〇〇〇〇 : 分類や研究分野の名称